爽・創・荘	学校だより 令和６年２月６日 加古川市立両荘中学校

☞爽やかであること、創造すること、成長することを願って、「爽（そう）・創（そう）・荘（そう）」と名付けました

両荘中学校の財産として・・・

両荘中学校で脈々と受け継がれてきたものの中に、1994 年 12 月 24 日生徒一同による「男子頭髪『自由化』についての生徒会宣言」があります。昨年度までの生徒手帳に 6 ページにわたり記されており、当時の生徒会が話し合いを重ねながら、男子丸坊主から今では当たり前の頭髪の自由化に大きく舵をきったことがうかがえます。宣言の冒頭に、

「男子頭髪『自由化』に向けて、生徒会を中心として、生徒、先生、保護者が力を合わせてがんばった経緯や熱い思いを大切にし、また、生徒手帳に明記することによって、その精神を後々の人たちにも伝えて、さらにより良い両荘中学校を築いていくことを願ったものです。」

と、あります。そして、自由化になることでの「大人との区別の難しさ」や「非行や学校の荒れへの心配」などを議論しつつも、最終的には、本人の意思が尊重されること、そして、より良い学校生活を築いていくために、その行動に対して責任を持つことの両面が大切であると続けています。

頭髪の自由化は、今の社会では当たり前の如く認知されていますが、「個人尊重」と「責任を持つ」という考えは、令和の今の時代でも大切にしなければならない考えであり、この考えを形成してきた当時の生徒、保護者、教職員の皆様を尊敬せずにはいられません。

決められたことを守っていこうとする姿勢が大切なことは言うまでもありませんが、個人尊重とはどういうことか、責任を持つとはどういうことかを常に考えながら行動することは、みなさんがこれから社会で自分らしく生きていくためには必ず身につけなければならない資質です。

そして、この宣言の最後には、「大きな問題が生じたときには、『生活みなおし委員会』という委員会を開催して話し合いを進めていく」と記されています。時代の変化に伴い、知恵を出し合いながら、話し合いでしっかり解決していくべきであるとの考えに立ってのことです。

当時の宣言は、先輩たちから、この両荘中学校に学ぶすべての後輩たちへの時代を超

えた熱い熱いメッセージであるように思います。私たちも、このメッセージは、必ず引き継がなければなりません。それが、両荘中学校の魂を残すということです。

　ひょっとしたら、皆さんのお家の方の中に、当時の両中生がおられるかもしれません。おられたら、ぜひ、当時の思いを聞いてみてください。

トピック　*両荘中学校　から　両荘みらい学園へ*

　これまで長い時間をかけて、校則はどうすべきかを2小学校と話し合いを重ねてきました。昨今の時代の要請や前述した「宣言」の考えを踏まえると、校則を必要最小限にしたいとの考えに至りました。そこで、両荘みらい学園では、9 年間の一貫教育の中で、「TPO を考えて判断し、行動できる児童生徒の育成」をめざし、「校則」というきまりを前面に出した性格のものではなく、「行動の三指針」として、新たに示すこととしました。

　ただ、市教育委員会や警察、学校などで構成される加古川地区学警連絡・校外補導連盟で、生徒指導基準が決められており、それは守らなければならない事項です。この生徒指導基準を踏まえての「行動の三指針」となっています。この指針を見ていただければわかるように、1st ステージでは、めざす児童の姿を丁寧に示し、後期課程（7年生・8年生・9年生）になると、細かく示すのではなく、「自分で考えて行動する」内容が多くなっています。

←←←←（こちら）　生徒指導基準〔加古川地区学警連絡・校外補導連盟〕

「両荘みらい学園　行動の三指針」（こちら）⇒⇒⇒⇒

後期課程で、これまでより自由度が広がる主な部分

☆髪型の規定は、幅広くなります（例：いわゆる“ツーブロック”は可）。
☆運動靴は、運動しやすい靴であれば色は問いません。
☆体育館シューズは、指定しません（部活動で使用するシューズ OK）。
☆靴下の色は、問いません。
☆防寒具（ウィンドブレーカー）は、指定しません（家にあるものでの代用 OK）。

１月のホームページ「両荘エトセトラ」より

1.17 集会　～大地震の教訓を忘れない～　1 月 17 日

**　今日は、地震の避難訓練をしたあと、生徒会主催の「1. 17 集会」を行いました。まず、最初に、震災クイズを通して、自分ができる防災について考えました。**

「今、地震が起こったらどうしますか」との問いには、自分の命を守るためにすることが具体的に出てきました。「体育館では」「家では」と場面ごとでの命の守り方が説明されました。

**　つぎに、生徒会代表が神戸市東遊園地内から分灯していただいた炎を全校生に分灯し、「1. 17 宣言」が朗読されました。震災でなくなった方々の御霊に黙祷をささげ、真剣な面持ちのまま、会を閉じました。**

**　教訓をどう活かすか、ずっとわたしたちが考え続けなければならないことです。**